

[09_02]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1468048>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 9 (2), 1976-06-01. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



計算機システム機器構成変更について

当センターでは、51年8月および52年3月に計算機システムの一部置き換えを行なう予定である。これは、現行レンタル料のわく内での措置であり、下記の3機種についてである。(図1参照)

1 集合ディスクパック装置 現在、当センターではF472KおよびF477Kの2機種を併用していて、ともに8スピンドルを設置している。しかし、F472Kの方はすでに旧式化しているため、これを高速・大容量のF479Bスピンドルに置き換える。これにより、ランダム・アクセス・ファイルの総容量は1033MBから2000MBに増加するため、昨年度計算機システムの隘路になっていた作業用ファイルおよび利用者用専用ファイルの不足がある程度改善されるのではないかとと思われる。

表1. 集合ディスクパック装置

型 名	1スピンドル当りの容量 (MB)	データ転送速度 (KB/S)	アクセスタイム (ms)
F472K	29	260	85.0
F477K	100	806	33.4
F479B	200	806	33.4

2 カード・リーダー 現在、利用者のオープン使用のために2階のロビーに設置しているカード・リーダーF668K1台を低速ではあるが操作性のよいマルチ・カード・リーダーF672A2台に置き換える。これにより、操作性の向上とともにカード入力のための待ち行列に対する改善がある程度期待できる。

3 磁気テープ装置 現有の磁気テープ装置F603Fは性能的には旧式であるので、この5台を高密度・高速のF611A4台に置き換える。

表2. 磁気テープ装置

型 名	記 録 密 度 (rpi)	データ転送速度 (KB/S)
F603F	800	60
F611A	6250/1600	781/200

置き換えの実施時期は、1, 2の集合ディスクパック装置、カード・リーダーの入れ替えを8月下旬、3の磁気テープ装置は3月下旬を予定している。機器の据付け・調整のために計算業務停止期間を必要とするので、この間の計算機利用はこの点を留意し計画していただきたい。なお、詳細な業務日程はおってセンター・ニュースでお知らせする。また、磁気テープの利用者にとっては、来年度から記録密度が800rpiから6250/1600rpiに変わるので、変換作業等が必要になるが、これについても、広報、センター・ニュースでお知らせする。

図1. F230-75 システム構成図 (51. 9)

